



■ テーマ名

地域リハビリテーションにおける連携 運動失調症の機能評価と作業療法の効果判定

■ キーワード

地域リハビリテーション、他職種連携、運動失調症

■ 研究の概要

<地域リハビリテーション>

在宅で暮らす障害者、高齢者が増加傾向にある。その対象者へ充実したサービス提供が行われているか、サービス提供者の職種間、施設内・事業所内連携がスムーズに行われているか調査し、円滑な連携をはかす方策を検討する。

<運動失調症の機能評価と作業療法の効果判定>

運動失調症の四肢機能の評価は、主観的なものが多く、客観的指標が確立されていない。臨床では、客観的評価を確立し、治療効果や経時的変化の把握を行えるように、評価システムを構築することが要求されている。

■ 他の研究／技術との相違点

作業療法士は、介護保険や高齢者医療・福祉の制度の中での専門職と位置づけられているが、今後は高齢障害者なども増える傾向を考慮すれば、総合自立支援法において、生活介護・就労支援での役割も大いに期待される。現在実際の支援している事業所と連携し、作業療法士の役割、スタッフ間連携についての研究を進めている。

運動失調の機能評価、地域リハビリテーションにどちらにおいても、20年間の臨床経験で具体的な事例を通じて得られた経験を基に、より対象者のニーズに応えられる内容にするよう心がけている。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

地域リハビリテーションに関しては、現場で対応している多くの職種にアンケート調査などを行い、各職種の「思い」や現状を情報収集し、問題点を分析し、連携における解決策を見出していく。

運動失調症は、機能評価に関しては症例数も少なく一般化にはまだまだ難しいが、並行して治療法として、テレビゲームなどスペースや費用のかからないもので、かつ高齢者なども利用しやすい環境・設定を考えていきたいと思っている。

■ 関連業績 (特許・文献)

ひょうごふるさと創生塾の企画委員、一般社団法人兵庫県介護支援専門員協会相談員、明石市地域自立支援協議会などに関わることで、広く具体的な対象者や他職種のニーズ把握に努めている。

■ 研究者から一言

作業療法(士)は、その就業する領域の狭さから(病院・施設がほとんど)、認知度がまだまだ低い。人と環境を適合する知識・技術をもつ作業療法(士)の活躍できる場をもっと広く啓発し、市民に対し貢献できるよう努めていきたい。またそのような作業療法士の育成にも力を注ぎたい。